

九

眉間ノ白毫相ヨリ金色ノ光明ヲ發射シ玉ハ忽チ周圍ノ草木

み けんのびやくこうそうよりこん じきのこうみようを はつ しゃ したまえば たちまちしゅういの くさき  
眉 間ノ白毫 相ヨリ金 色ノ光 明ヲ發 射シ玉へバ 忽 ち周 圍ノ草 木

十

悉皆金色ニ變シ其時青キ笹葉ニ金色ノ光リ映シテ真黒色

ことごとくみな こんじきにへんじ そのとき あお きささば に こんじきの ひかりえい じてまつくろいろ  
悉 皆 金 色 二 変 シ 其 時 青 キ 笹 葉 ニ 金 色 ノ 光 リ 映 シ テ 真 黒 色

十一

ニ変シタリ因ツテ天龍王ナル名稱ヲ黒笹改称シ玉ヒタリ其時我驕

にへん じたり よって てんりゆう おうなる めい しょうをくろ ささとかいしようしたまいたり そのときが きよう  
ニ 変 シ タ リ 因 ツ テ 天 龍 王 ナ ル 名 稱 ヲ 黒 笹 改 称 シ 玉 ヒ タ リ 其 時 我 驕

十二

無道ナル長谷川氏モ佛ノ瑞相ヲ拝シ前非ヲ悔ヒ廻心懺悔シテ領

むどう なる は せ がわ しもほとけの ずいそうを はいし ぜんびを くい かいしんざんげ してりよう  
無 道 ナ ル 長 谷 川 氏 モ 佛 ノ 瑞 相 ヲ 拝 シ 前 非 ヲ 悔 ヒ 廻 心 懺 悔 シ テ 領